

シーン2

「みんなようこそ！」

「ギャル子ちゃんのおもちゃの時間だよー！ 来てくれてありがとね！」

「どうどう？」

「今日はアタシが持つてるぬいぐるみくんたちにも映ってもらってるのー」

「……えー、イメージない？」

「アタシ、結構好きなんだよ」

「お気に入りはこの子。アザラシのあーくん。ふわふわしてて抱きしめながら寝てるんだ

ーほっぺをモリモミするのもいいんだよねー」

「もっもちで癒されるの……んー？」「そのぬいぐるみでオナニーするの？」

「鋭いねー」

「でも、この子ではしないよ」

「この前触手くんでしたでしょ？ で、また同じ人から送ってもらっちゃったの。今回は

上級者向けっばからドッキドキ、前よりももーっとエッロいことになっちゃうね」

「ぬいぐるみっばい見た目なんだけど、それもぬるま湯の飲ませる必要があるの。でも、

もう飲ませて準備してあるからすぐできるよ、みんな、おちんぼの準備はOKっ」

「んじゃ、今日もギャル子ちゃんできっばいシコってね！」

「早速今日の主役に登場してもらおっかなー」

「よいしょっと、そこそこ重いなーじゃんっ、この子です」

「ふわふわっていうより、もっちりしてる。前のもこんな感触だった。触手はだいたいこんな感触なのかもねー」

「うおおっ、えっ、なになに。触手生えてきたんだけど。おっ、うわっ、ええっ、何本生えてくんの……これは、もう触手くんじゃないね。触手さんだね……」

「まあ、いつか」

「おもちゃは気持ちいいかどうかしねーわわっ、股間からぶっとい触手生えてきた……なにこの太さ。前のよりずっと大きいんだけど」

「アタシ、この触手さんにこれで犯されちゃうんだワクワクしちゃう」

「……「もう勃起してるよー」」

「ありがとうね」

「まだなにもしてないのにアタシのこと好きすぎだね、それとも触手で興奮しちゃったの？ この前さ、アタシのお尻みたいってコメントしてくれた子が多かったから後ろ向きで騎乗位するね」

「じゃ、パンツ脱いでっ」

「これから触手さんとやっちゃいまーす」

「んー、この辺ですればいいかな？」

「どう？ みんな」

「……「お尻綺麗だよ」」

「本当？ 嬉しい」

「おまんこはさっきちょっといじって濡らしといたから平気だと思うんだけど……挿れるね、んうっ、ううっ、ううっ……太すぎっ」

「んっ、んうっ、ううっ、ううっ、んうううっ……ふう、全部入ったあ、おまんここんなに広がっちゃうんだ。んうっ、んっ、んっ……あっ、中で触手動きはじめた」

「あっ、あんっ、んんっ、んううっ……ギッチギチに広がってるおまんこ、強引に責められてる。ちょっと苦しいけど気持ちいいかも」

「んっ、ううっ、んんっ、んうっ、ううっ、んううっ……みんなどう？」

「エロい？ 楽しめてる？」

「ちょっと振り向かないとだからコメント見つらいな。うおおっ、触手きた」

「えっ、なに。もしかして、触手気持ちよくしてほしいの？ じゃあ手でシゴいてあげる」

「ん、んっ、んうっ、んんっ……騎乗位しながら手コキとか🍑みたいだね、触手ってこんなプレイまでできちゃうんだ、乱暴されたいって女の子にはいいかもね」

「んんっ、んっ、んっ、んううっ……触手とろとろしてきた。先っぽからおつゆ出てるの。我慢汁みたい」

「んんっ、んっ、んっ、んうっ、ううっ、んううっ……ヌルヌルしてて見た目もエロい。んっ、んうっ、はあっ、んうっ、んんっ……」

「みんなのおちんぽはどうなってるの？ みんな教えて。んっ、んうっ、んんっ、んはあっ、んんっ……えーっと、「ギャル子ちゃんのお尻ムッチムチでエロいからちんちんパンパンになっちゃった」

「お尻大きいの気にしてるんだけどムチムチしてる方がいいんだ、そういう人多いよね。ちょっと恥ずかしいけど、おちんぽ興奮させてくれるならいいかな」

「んんっ、んうっ、んっ、んっ、んはあっ……おまんこの中の触手の動きは前のと一緒かな。んうっ、はあっ、ああっ、ああんっ……」

「にゆるにゆるっておまんこのヒダヒダに絡んできて気持ちいい。んっ、んうっ、んっ、んはあっ、んうっ……しかもぶっといからどんどんおまんこ広げられてる」

「はあっ、あんっ、んんっ、んうっ、んんっ……極太デイルドも実況したギャル子ちゃんに、ん♡ これぐらい♡ んんっ♡ んひいっ！」

「んっ、んうっ、はあっ、んんっ、んうっ……」

「……へへっ、みんなありがとう、アタシもみんなのこと大好きだからねー」

「んっ、んはあっ、ああっ、んあっ、ああっ……わっ、もう一本きた。これはフェラしてほしいのかな？ れろっ、れろっ……んぽっ♡ ちゅっちゅ♡……4Pになっちゃった」

「れろっ、れろっ、れろれろっ、んっ、れろっ、れろっ、れろちゅぷっ……」

「触手さん、おまんこも味わいたいし、手コキもされたいし、フェラもしてほしいんだ欲張りなんだねーれろっ、れろっ、れろれろっ、んんっ、れろれろっ、れろちゅぷっ……」

「アタシの口の中で触手プルプル震えて喜んでる。れろっ、れろっ、れろっ、れろれろっ、れろれろっ、れろれろっ……みんなもアタシにフェラされてるの想像してシロってね」

「触手舐めるのもおもしろい。ムチムチで感触楽しいし、我慢汁の量が多いのもいい」

「……んー」「フェラしてる顔エロっ」

「へへっ、自分のおちんぼ舐められてるの想像できたかな？ おうわっ、また触手きたー」

触手さんもみんなと一緒にアタシのこと好きになっちゃったみたいだねー」

「あんっ、おっぱいにきた、パイズリがいいのかな？ じゃあ服脱いじゃおーっと」

「はい、おっぱいどうぞ、あは♡ 触手さん、おっぱいいじるの上手♡ んっ、んうっ、

はあっ、あっ、あんっ……おまんこも手も口もおっぱいも」

「きつきつに絡みついているのに苦しくなくて♡ んぁ♡ 触手さんすごいよぉ♡ んっ、

んはあっ、ああっ、あんっ、んんっ……」

「触手さん熱くなってきた。そろそろピュッピュしちゃいそう、みんなのおちんぼもそろそろ精子出ちゃうよね、アタシもヤバそう」

「みんなで一緒にイこうね。んっ、んはあっ、あっ、あっ、ああっ、ああんっ……ふぐう

っ……んぐっ、んうっ、じゅちゅじゅちゅ、じゅぽっ、んんっ、れろっ、じゅちゅじゅぷ

っ、んはっ……」

「触手さんが口の中につ……アタシのフェラ気に入れちゃったみたい」

「はあ、はあ……あつ、あつ……クリいじるの激しくなってきたっ。あつ、あつ、ああうっ……ラストスパートかけてきてるっ」

「んううっ、んああっ、ああっ、ああんっ……んひゃああっ、乳首にもきたっ」

「あつ、あつ、あああー！！……触手さんの触手、なんでアタシがしてほしいことわかってちゃってるのお。ああっ、ああうっ、んんっ、んはあっ、ああっ、ああっ……」

「触手さん、うますぎい♡ 乳首もクリちゃんもオマンコの奥も♡ 全部でいっちゃうっ！！！！ あつ、ひゃああっ……せーし、触手さんのせーしんちゅ。前のと違ってほんとにせーしの匂いだあ♡」

「んううっ、うううっ、んああっ、ああっ、ああうっ……精子熱いし、くっさい、なんなのこの匂い。エロすぎだから」

「はあっ、ああんっ、んんっ、んうううっ、ああんっ……上級者向けはせーしまでエロくなってるみたい、ああっ、あつ、あつ、ああんっ……クリっ！？ イッてるから♡ んひっ♡ クリちゃん激しい！？」

「あつ、ああっ、んうううっ……触手でグニグニクリいじられるのたままない。ああっ、あはあつ、ああううっ、んうううっ……いくうっ！？ んうううううっ……んううう、うう、うう、んうううっ……」

「やばっ、連続でイカされる」

「子宮の入り口♡ 舐められちゃって♡ これしゅごっ♡ 子宮でも♡ イっちゃうっ♡  
♡！！！！ ふんっっ……おまんこ口一斉に責められて」

「触手に体貫かれてるみたい、ううっ、んううっ、はあっ、ああっ、ああっ……イクっイクっイクっ。触手さんに体好き放題されてイっちゃう」

「触手さんしゅごい♡ んちゅ♡ もっと、もっと♡ 体全部気持ちよくしてっっ♡♡♡！！！！」

「んああっ、あっ、あっ、あっ……イクっ、イクっ、イクっ、んうううう……！ ううっ、ううっ、んっ、んっ、んっ、んああっ……」

「はあああ……触手さん激しすぎい」

「うううー 思ってたのの数倍イっちゃったよお」

「みんなはどんな感じ？……」 「ギャル子ちゃんにぶっかけちゃった」 ははっ、かけられちゃった」

「アタシのこと犯すのよかったかな？ ふう、触手さんのおちんぽ抜くね。見てて」

「んうっ、うっ、んああっ……」

「ザーメンおまんこから垂れてきた」

「うわあ、結構出てるね、それじゃあ、次は……触手さんってねハードモードっていうのがあるみたいなの。うわ、反応早い。これだけ投げ銭してくれたらやらないわけにはいかないよね。」

「みんなー、おちんぽ準備してねーんしょっと」

「仰向けになって……触手さんを持ち上げる」

「これでいいんだよ。ここをこうしてっと。えっ、えっ……触手引っ込んでくんだけどどうして?」

「間違えたかな?」

「うおおっ。えっ、なにこれ。めっちゃぶつとなのが股間から生えてきた。うわっ、口からも触手でした。なにこれ……いや、まさかこれでするんじゃないよね」

「だって太すぎだし。絶対こんなの入らないもん」

「しかもなんかつぶつぶがついてるし……えっ、ウソウソウソっ……んぐうっ、あっ、ぐっ、ううっ、うぐうっ……」

「おまんこ、もっとガバガバにされる……んぐうっ、んああっ……入っちゃった。触手さんの凶悪ちんぽ全部突っ込まれちゃった。うっ、んぐっ、ああっ、あぐっ、うっ、うぐうっ……触手さんに抑え込まれながら、おちんぽで突かれてる」

「種付プレスでイカされちゃう♡ んひっ♡ しゅごい♡ 奥ゴリゴリされて子宮こじ開けられてるみたい」

「おちんぼについでる、つぶつぶも……んうっ、ううっ、んっ……おまんこの中マッサー  
ジしてるみたいで、かなり、気持ちいいの」

「んおおっ、おっ、おっ、んううっ、んぐっ、うっ、ふぐうっ……」

「いったばっかのおまんこだから……んうっ、うぐっ……感じやすいし」

「あっ、あうっ、んっ、んぐうっ、おおっ……触手さんちんぽに絡みつきにいつちゃって  
余計に刺激強くなってる」

「我慢汁もドロドロ出ててるから……んぐっ、ううっ、んっ、んぐうっ……」

「痛くないし、ぐちゅぐちゅ擦れる音がエロい」

「おおっ、おおっ、おおっ、ううっ、ううっ、んおおっ……おまんこ開かされてる圧迫  
感も、おおっ、おおっ、おおっ、んううっ……気持ちいい」

「もちろん、アタシもマン汁もたっぷり溢れてるんだけどね。うおおっ、おおっ、おおっ、  
んぐっ、ううっ、んぐうっ、ああっ、ああうっ……いくっう！？ 触手さんでいろんなど  
こいって止まらないい！？」

「コメントも見たいけど」

「んおおっ♡」

「こんな極太ちんぽ挿れられて犯されてちゃってるあから無理っ。ううっ、んぐうっ、う  
おおっ、おおっ……おちんぼで突かれるたびに、喘いじゃうし。うああっ、ああっ、ああ  
ううっ……」

「ツブツブが擦れて……おおっ、おおっ、おおうっ……おまんこだけじゃなくて、全身感じちゃうからあ。ああっ、ああっ、んううっ、あああっ……ひうっ♡ もう一本の触手もきたっ」

「んぐうっ……はあ、はあ、はあ。こっちの触手も凶暴すぎる、喉奥犯してくるっ、アタシの喉、おまんこにされてるっ。んっ、んはあっ、ああっ、あうっ、んううっ……」

「喉まんこも突かれまくってイっちゃうううっ、んっ！？ んんんっ！？？」

「ヒグッ、ヒグッ、ヒグううううう……！ んおおおおっ、おおっ、おおっ、うぐうっ……ちゅぽっ……んっ、んうっ、んんっ、こくっ、ごくんっ……はあ……喉にもおまんこにのザーメン出されちゃった」

「はあ、はあ、はあ……こんな大量のセーシ飲まれたの初めて。お腹いっぱい」

「うっ、んっ、んうっ……んああっ……触手さん、しなってしちゃった……もう稼働時間終わりみたい、コメントも読みたいし、投げ銭のお礼もしなくちゃいけないけど、もう動けない」

「みんなは、いっぱい気持ちよくなってくれたかな？ 今日はこのへんで終わりにするね」

「ギャル子ちゃんのおもちゃの時間、今日はここまで」

「バイバーイ」